

透析病院における退院支援の評価 -病棟担当チームを立ち上げて-

長崎腎病院

○大畑裕子 内野澄子 下田美智子 丸山祐子 原田孝司 船越哲

【背景】

当病院は透析専門一般病院であり、特別養護老人ホームを併設し長期入院や透析終末期患者を受け入れている。その中で、介護者不在や合併症等の問題により、何らかの支援が必要となり、通院困難となる場合が多い。

【目的】

当院で「退院支援チーム」を立ち上げ、その前後の退院状況を評価し、透析病院における退院支援の課題を考察する。

【方法】

当院病棟入院患者 36 名を対象に、介護保険取得状況等の患者の背景状況を調査し、これに対して退院支援チームが介入することによりどう変化したか分析する。退院支援方法については、MSW との情報共有を密に行い、在宅復帰の他に当院付設または他介護施設へのショートステイ利用などを取り入れた。

【結果】

退院支援チーム介入前 6 ヶ月に比較し、介入後 6 ヶ月の時点で、退院数が 17 名から 29 名に増加し（死亡患者は含まない）、平均在院数も 44.0 日から 35.7 日に短縮した。

【考察】

退院支援チームが介入することで、タイミングを逃すことなく退院調整がおこなえる可能性が示唆された。